

# イソミミズ *Pontodrilus litoralis* (Grube, 1855) の 3 年 3 か月間の飼育記録

柴田康平  
鎌倉市

## 1. 採 集

イソミミズ *Pontodrilus litoralis* (Grube, 1855) の採集を 2016 年 6 月 29 日に 4 名の研究者と共におこなった。採集場所は横浜市野島公園、横須賀市走水、三浦市荒井浜の 3 か所の各海岸。



図 1 神奈川県横浜市野島公園乙舳(おっとも)海岸



図 2 神奈川県横須賀市走水海岸



図 3 神奈川県三浦市荒井浜海岸



図 4 三浦半島の各採集場所

## 2. 飼育方法

採集したイソミミズは不織布で塞いだ空気穴付きの 1500ml の飼育容器で飼育を開始した。飼育用の用土は、当初はミミズと一緒に採集した貝殻などの混ざった砂で、2 年経過したころにクロボク土に切り替えた。採集場所は砂浜の潮間帯だったが用土に塩分を加えるなどの操作はしなかった。餌は、乾燥ワカメや海苔、たまに布海苔(ふのり)を 1 ヶ月に一度程度の間隔で用土表面に置いた。飼育容器は室内に設置した通気のある

保冷庫内に保冷せず置いた。水分補給は4~5か月間隔で乾燥することはなかった。水分の量は飼育容器底にわずかに水がたまる程度で他のフトミミズ飼育よりは多めだった。

### 3. 飼育結果

【2016年6月29日】飼育開始



図 5 採集した 24 個体の飼育を開始



図 6 貝殻も一緒に採集した

【2016年7月18日 19日経過】



図 7 環帯が肥厚しているのもいた



図 8 飼育土壌中から取り出したミミズはほぼ必ずコイル状になった。

【2016年10月29日 採集から122日(4カ月)経過】





図 9 24 個体の生存確認 採集時肥厚していた環帯があまり目立たなくなっていた。

【2016年12月17日 171日(6か月弱)経過】



図 10 やや痩せた感じがある

飼育開始時 24 個体だったのが 23 個体に減った。

【2017年2月4日 220日(約7か月)経過】



図 11 生存数が 5 個体に減っていた

【2017年8月25日 422日(14か月弱)経過】



図 12 生存の 5 個体は弱っていない

【2018 年 1 月 8 日 採集飼育開始から 558 日(1 年 6 か月)経過】 生存を確認する

【2018 年 6 月 20 日 721 日(1 年 11 カ月経過)】 生存を確認する

【2018 年 7 月 3 日 734 日(約 2 年経過)】 生存を確認する

【2018 年 9 月 18 日 811 日(2 年 3 カ月弱経過)】 生存を確認する

【2018 年 12 月 6 日 890 日(2 年 5 カ月弱経過)】 生存を確認する

【2019 年 1 月 8 日 923 日(2 年 6 カ月経過)】 生存を確認する

【2019 年 5 月 29 日 1,064 日(2 年 11 カ月)経過】



図 13 生存は 4 個体となった



図 14 卵包らしきものが見つかる



図 15

飼育容器内に全長約9mmのミミズ卵包のようなものを発見したが、すでに割れ始めていてその後内部の液が漏れ出て飼育は困難だった。図 14

Teerapong Seesamuto 等の報告<sup>1)</sup>ではタイ産のイソミミズ *Pontodrilus litoralis* (Grube, 1855)の卵包の長さは 5mm 弱と小さめで湾曲もしていない。図 15

したがって図 14 の卵包様のものがイソミミズの卵包かどうかは不明。

【2019年9月4日 1,162日(3年2カ月)経過】



図 16 4 個体の生存を確認したがさらに 1 個体小さなミミズを発見した。

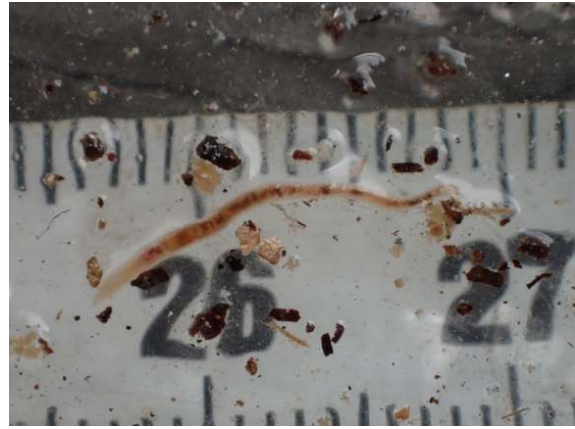


図 17 小さいミミズの体長は 15mm ほど

#### 【2019 年 10 月 3 日 1191 日(約 3 年 3 カ月)経過】

4 個体の生存は確認できたが 9 月 4 日に発見した小さいミミズは見つからなかった。

その後 2020 年 1 月 29 日にイソミミズ飼育容器内にはミミズが見つからず消滅を確認したため、2019 年 10 月 3 日がイソミミズの生存を確認できた最後の日だった。

#### 4. 飼育結果

イソミミズは 2016 年年 6 月 29 日から 2019 年の 10 月 3 日までの 1,191 日間、約 3 年 3 カ月は飼育による場合、生存する個体があることが分かった。ただし飼育は 24 個体で開始したが採集した年の 12 月から翌年の 2 月(7 カ月たったころ)の間に 4 個体に減り、その後 4 個体のまま経過した。飼育当初から給餌方法や水分量などの飼育方法を変えるなどの環境の変化はなかったため生存個体の減った原因は不明。

餌にカビが生えることがあったがミミズの生存に影響があったかは不明。砂浜から採集した時点でイソミミズは環帯が肥厚しているなど、すでに成体となっていて生存期間が相当期間あったと思われるので実際の生存期間はさらに数カ月長いものと思われる。3 年 3 カ月の飼育の間、卵包らしきものが 1 個と幼体かもしれない 1 個体を発見したが生育せず累代飼育はできなかった。

1)Teerapong Seesamut, Chirasak Sutcharit, Parin Jirapatrasilp, Ratmanee Chanabun & Somsak Panha. (2018) Morphological and molecular evidence reveal a new species of the earthworm genus *Pontodrilus* Perrier, 1874 (Clitellata, Megascolecidae) from Thailand and Peninsular Malaysia. *Zootaxa*, 4496, (1): 218–237

以上